

インスリン依存性糖尿病の犬に発生した
インスリノーマの1例森田泰典^{1)†} 森田佳子¹⁾ 西飯直仁²⁾ 酒井洋樹³⁾
児玉篤史³⁾ 柵木利昭³⁾

- 1) 愛知県 開業 (森田動物病院: 〒478-0022 知多市大興寺字長根67-4)
- 2) 鳥取大学農学部獣医学科 (〒680-8553 鳥取市湖山町南4-101)
- 3) 岐阜大学応用生物科学部 (〒501-1193 岐阜市柳戸1-1)

(2008年6月30日受付・2008年9月16日受理)

要 約

トイプードル, 雄, 8歳齢が糖尿病を発症したため, インスリン投与を行った. 症例には糖尿病発症の3カ月前に原因不明の低血糖がみられた. 約3年後, 血糖値がしばしば低値となったため, インスリン投与を完全に中止した. しかしその2週間後, 低血糖に起因する強直性痙攣発作で来院した. ブドウ糖の静脈内投与などの治療に反応せず, 発作が持続したため, 安楽殺処置を行い, 剖検を行った. 膵臓はび漫性に腫大し, 肝臓に直径約2cmの灰白色結節が7カ所認められた. 病理組織検査の結果, 膵臓はインスリノーマ, 肝臓の灰白色結節はその転移と診断された.

——キーワード: 糖尿病, 犬, インスリノーマ.

-----日獣会誌 62, 311~314 (2009)

† 連絡責任者: 森田泰典 (森田動物病院)

〒478-0022 知多市大興寺字長根67-4

☎0562-56-1710 FAX 0562-56-1769

E-mail: morita-vet@mti.biglobe.ne.jp